



だて正夢

登米地域の稲作通信 第9号

令和5年12月18日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

《概況》 作況指数 105「やや良」、1等米比率は 82.9% (11月30日現在)

1 気象経過

(4月)

上、中旬は平年よりも気温の高い日が続きましたが、下旬には最低気温が氷点下を下回る日もあり、寒暖差の激しい月となりました。

(5月)

上旬にはまとまった雨が降り、気温の低い日が続きました。その後は平年よりも気温の高い日が多くなりました。

(6月)

16日に100mmを超える大雨があり、6月の降水量は平年比180%となりました。その後は、気温が25℃を超える夏日が続きました。東北南部の梅雨入りは平年より1日早い6月11日頃でした。

(7月)

気温は平年より高く推移し、下旬には30℃を超える日が多くなりました。日照時間は平年比155%となり、高温多照の月となりました。東北南部の梅雨明けは平年より2日早い7月22日頃でした。

(8月)

連日最高気温が30℃を超え、下旬になっても気温の下がらない日が続きました。降水量は平年比61%となり、雨の少ない月となりました。

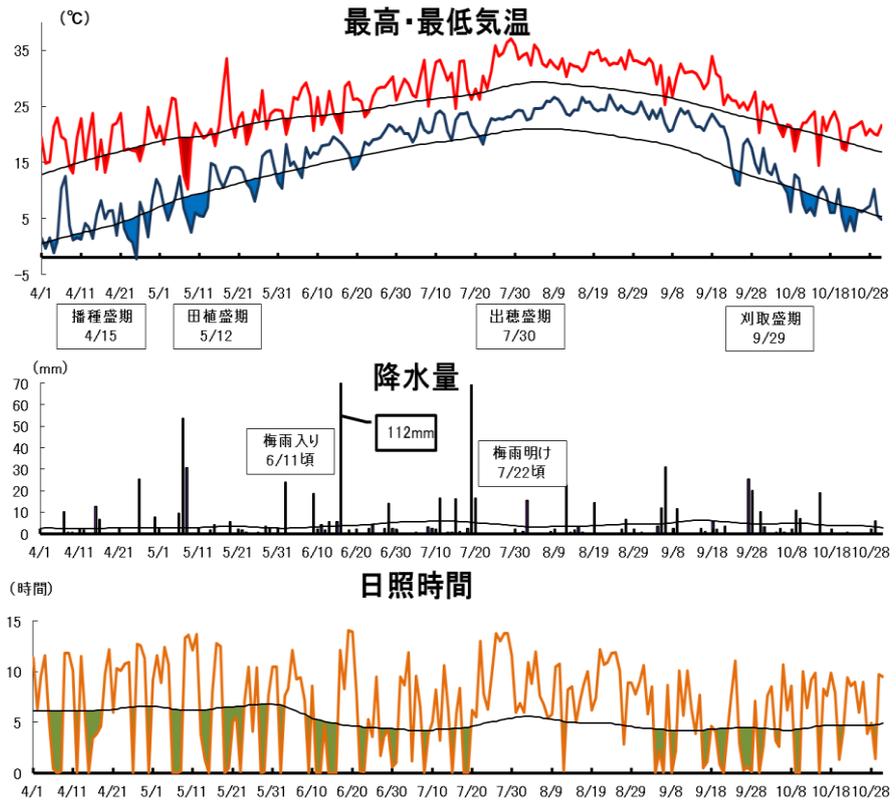
(9月)

上、中旬でも30℃を超える日が多くあり、平均気温も高く推移しました。

(10月)

平均気温はおおむね平年並みで推移しましたが、日照時間は平年の141%となりました。降水量は平年の40%となりました。

観測地点：米山アメダス



2 気象概況と管内の生育概況

(1) 育苗期

- 管内の播種盛期（50%終了）は4月15日（平年より3日遅い）でした。
- 4月中旬の高温の影響により高温障害、徒長苗が見られました。

(2) 田植期～活着期

- 管内の田植盛期（50%終了）は5月12日（平年より1日早い）でした。
- 5月上～中順に気温の低い日が数日続きましたが、その後は天候に恵まれたため、田植え後の活着は概ね順調に進みました。

(3) 分けつ期～出穂期

- 管内の出穂盛期（50%終了）は7月30日（平年より2日早い）でした。
- 7月は気温、日照時間が平年よりも高く推移し、草丈は平年より高く、葉色は平年より低く推移しました。

【管内の出穂状況】

地帯区分	出穂始期		出穂期		穂揃期	
	令和5年	平年	令和5年	平年	令和5年	平年
北部平坦	7月28日 (-1)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月4日 (-4)	8月8日
三陸沿岸	7月28日 (-3)	7月31日	7月30日 (-4)	8月3日	8月4日 (-9)	8月13日
管内	7月28日 (-1)	7月29日	7月30日 (-2)	8月1日	8月4日 (-4)	8月8日

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日。
 ※平年値は、過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

(4) 登熟期～収穫期

- 8月上旬から9月中旬にかけて30℃を超える日が続き、最高気温、最低気温ともに平年を大きく上回り推移しました。
- 管内の刈取盛期（50%終了）は9月29日（平年より1日早い）、刈取終期（95%終了）は10月8日（平年より6日早い）となりました。
- 高温と降雨により、ササニシキ、つや姫、金のいぶき等では、倒伏していなくても穂発芽した稲が散見されました。

【管内の刈取状況】

地帯区分	刈取始期		刈取盛期		刈取終期	
	令和5年	平年	令和5年	平年	令和5年	平年
北部平坦	9月19日 (-3)	9月22日	9月29日 (-1)	9月30日	10月8日 (-6)	10月14日
三陸沿岸	9月17日 (-7)	9月24日	9月26日 (-7)	10月3日	10月8日 (-5)	10月13日
管内	9月19日 (-3)	9月22日	9月29日 (-1)	9月30日	10月8日 (-6)	10月14日

※刈取始期・刈取盛期・刈取終期は、それぞれほ場の50%以上出穂した面積が5%、50%、95%に達した日。
 ※平年値は、過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

3 管内の病害虫の発生状況(県病害虫防除所巡回調査結果による)

(1) ばか苗病

- 育苗時の巡回調査の結果、発病箱率は0.2%でした。(県平均0.3%)
- 7月上旬の巡回調査では、発病株率は0%でした。(発病株率0%)

(2) 紋枯病

- 9月上旬の巡回調査では、発病株率は26.0%、発病度は5.4でした(県平均発病株率8.7%、発病度1.9)。
平年(発病株率17.8%、発病度5.6%)より多い発生でした。

(3) いもち病

1) 葉いもち

- 6月上旬の残苗巡回調査では、残苗放置筆率は17.2%、残苗発病筆率は0%でした。(県平均残苗放置筆率15.5%、残苗発病筆率0%)
- 7月下旬の巡回調査では、発病株率は0%、発病度は0%でした。(県平均発病株率1.1%、発病度0.3%、上位1~2葉病斑数0.1、上位1~3葉病斑数0.2)

2) 穂いもち

- 9月上旬の巡回調査では、穂いもちの発病穂率は0%、被害籾率は0%でした。(県平均発病穂率0%、被害籾率0%)

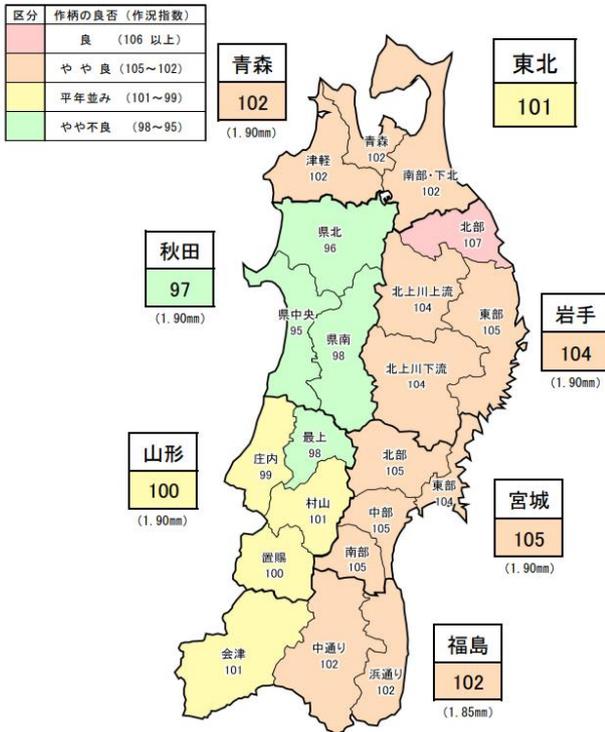
(4) イネドロオイムシ

- 6月中旬の巡回調査では、イネドロオイムシの被害度は5.9(県平均1.1)、7月初旬の巡回調査では5.6(県平均1.2)でした。

(5) 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

- 7月中旬の巡回調査では、水田周辺(畦畔、牧草地、雑種地)におけるカスミカメムシ類(アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、フタトゲムギカスミカメ等)の1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点では627頭でした(県平均132.5頭)。
- 高温の影響により各世代の発生盛期が平年よりも早くなり、7月下旬の巡回調査では、水田周辺におけるカスミカメムシ類幼虫の1地点あたりのすくい取り虫数は多い地点では688頭となり、県平均の102.7頭を上回りました。

4 令和5年産水稻の作柄概況（東北地方）



東北農政局 令和5年12月12日公表

【結果】

東北地方の水稻の10a当たり収量は569kgとなった。

全もみ数（穂数×1穂あたりもみ数）は田植え期以降おおむね天候に恵まれた宮城、福島は平年に比べやや多くなったものの、青森、岩手、秋田、山形は6月から7月中旬までの日照不足により平年に比べやや少なくなった。登熟（もみの肥大、充実）は、出穂期以降の天候に恵まれ順調に推移したことから、前年産より10kg多い569kgとなった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.90mm）ベースの10a当たり収量は545kg、作況指数は101の「平年並み」となった。

注：作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、第2に、過去5か年（平成27年度～令和元年度）に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。なお、東北は、第2のふるい目幅及び収量を積み上げて算出した数値である。

5 1等米比率と品質を左右した要因

表 1等米比率と落等要因（倉庫検査+カントリーエレベーター、うるち米）

（11月30日現在）

支店名		JAみやぎ登米									JA南三陸	R5	R4	
		迫	とよま	豊里	石越	南方	米山	なかだ	東和	計	津山	登米市	登米市	
1等米比率（%）		90.7	92.5	90.6	86.2	88.9	82.1	85.5	83.1	87.2	58.5	87.0	97.0	
格下理由	形質	充実度不足	1.8	3.4	1.2	1.0	4.8	0.2	1.5	1.3	1.7	40.5	1.9	1.4
		心白・腹白	0.2	1.3	1.6	0.9	0.8	2.9	2.0	4.1	1.6	0.0	1.6	0.1
	着色粒	カメムシ・その他	7.0	2.6	6.0	10.9	5.3	14.6	10.9	10.4	9.2	1.0	9.1	0.9
	被害粒	胴割粒・発芽粒	0.2	0.0	0.6	0.9	0.2	0.0	0.0	0.7	0.2	0.0	0.2	0.5
異種穀粒・もみ混入		0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	0.1	0.0	0.1	0.2	

※1等米比率は倉庫検査+カントリーエレベーター。

※格下理由は倉庫検査の格下数量割合から算出。

※充実度不足：形質的に扁平、縦溝が深い、果皮が厚い、光沢がない、肌ずれ、薄い茶米、軽い奇形、未熟粒等が1等米より多く認められるが、それ単独では格下げ理由に当てはまらず、総合的に判断して1等米に該当しないもの

※異種穀粒：もみ混入、もち玄米混入（うるち）、精米混入等

（1）1等米比率

- 管内の1等米比率は87.0%（11月30日現在）でした。
- 落等要因は、第1位は着色粒で、続いて充実度不足が多くなりました。

(2) 品質を左右した要因

○着色粒の発生

- ・高温の影響から各世代の斑点米カメムシ類の発生が早まり、防除タイミングがずれたことが考えられます。また、高温の影響により割れ粃の発生が多く、粃殻の隙間から雑菌等が入り着色したのも多く見られました。

○充実度不足の発生

- ・充実度不足の原因は、登熟期間を通しての高温、夜温（最低気温）が下がらなかったことや水分不足等による粒張りが低下したことが考えられます。

(参考) 調査ほの品質調査結果

【水稲品質調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	玄米 (1.9mm以上)								
				整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	白未熟粒比 (%)	青未熟粒比 (%)	その他未熟粒比 (%)	着色粒比 (%)	死米粒比 (%)	被害粒比 (%)	
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町		44.6	2.5	18.6	0.2	29.9	1.8	1.7	0.7
				前年値	66.4	1.3	1.9	7.9	21.5	0.4	0.0	0.5
				前々年値	68.1	7.8	1.4	3.6	18.4	0.0	0.0	0.7
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町		44.0	3.1	15.5	0.4	34.3	0.4	1.4	0.8
				前年値	64.4	1.0	3.0	2.9	27.6	0.3	0.1	0.8
				前々年値	69.1	3.7	2.1	2.9	21.1	0.1	0.2	0.7
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町		45.9	3.6	17.5	0.1	31.0	0.1	0.9	0.9
				前年値	59.5	0.9	4.5	11.1	22.6	0.4	0.2	0.6
				前々年値	67.9	11.1	2.5	0.5	17.3	0.0	0.1	0.6
4	ササニシキ (復活ササニシキ)	Cタイプ	豊里町		49.0	3.7	31.3	0.0	10.6	0.0	3.4	1.9
				前年値	88.6	0.4	2.9	1.7	4.8	0.0	0.3	1.4
				前々年値	57.8	22.3	4.4	2.7	11.9	0.0	0.8	0.6
5	だて正夢	-	迫町		0.4	0.0	69.0	0.0	10.6	0.2	14.1	5.7
				前年値	56.5	0.2	2.9	3.3	33.9	0.9	0.1	2.2
				前々年値	66.3	1.9	2.2	2.3	24.7	0.0	0.1	2.5

※SATAKE社RQI-100Bで測定

※栽培タイプ Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※千粒調査

※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計

※金のいぶきは、巨大胚および低アミロース品種であるため、品質判定機による品質評価ができないためデータなし

※だて正夢は低アミロースのため、白未熟粒とカウントされた玄米が多かったと推測される。

【水稲品質調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	玄米 (1.9mm以上)								
				整粒比 (%)	胴割粒比 (%)	白未熟粒比 (%)	青未熟粒比 (%)	その他未熟粒比 (%)	着色粒比 (%)	死米粒比 (%)	被害粒比 (%)	
1	ひとめぼれ	フラ耕 グレートリル体系	米山町		59.6	2.2	7.4	0.5	28.7	0.0	0.7	0.8
				前年値	73.3	0.0	2.2	4.7	17.4	1.3	0.0	1.2
				前々年値	63.3	0.3	0.3	11.4	23.9	0.0	0.0	1.1
2	ササニシキ	フラ耕 グレートリル体系	米山町		53.8	1.3	27.1	0.2	15.3	0.0	0.8	1.6
				前年値	86.1	0.0	3.4	3.7	5.2	0.0	0.3	1.4
				前々年値	76.0	0.2	2.8	3.8	16.9	0.0	0.3	0.1
3	つきあかり	フラ耕 グレートリル体系	豊里町		50.7	1.8	15.6	1.4	28.9	0.4	0.8	0.5
				前年値	88.6	0.4	2.9	1.7	4.8	0.0	1.5	0.2
				前々年値	62.8	0.0	10.0	3.2	20.9	0.1	1.5	1.4

※SATAKE社RQI-100Bで測定

※千粒調査

※白未熟粒は、乳白粒、基部未熟粒、腹白未熟粒の合計

6 調査ほの収量調査結果

(1) 移植栽培 収量調査結果

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点		収量調査(1.9mm以上)						<参考> 倒伏 程度 (%)
					m ² 当たり 穂数(本/ m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 当粒数 (百粒/m ²)	登熟歩合 (%)	玄米千粒 重(g)	精玄米重 (kg/10a)	
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町		395	72.4	286	85.5	22.5	549	0
				前年比・差	96%	90%	86%	110%	96%	91%	
				平年比・差	99%	96%	95%	105%	99%	99%	
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町		443	71.5	317	86.0	22.5	613	0
				前年比・差	105%	96%	102%	103%	97%	101%	
				平年比・差	102%	114%	116%	97%	101%	114%	
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町		404	71.2	288	84.8	22.9	560	0
				前年比・差	83%	81%	68%	129%	98%	85%	
				平年比・差	92%	100%	92%	108%	101%	102%	
4	ササニシキ	Cタイプ (復活サニシキ)	豊里町		340	76.6	260	96.4	21.5	538	0
				前年比・差	106%	83%	88%	128%	93%	105%	
				平年比・差	82%	94%	78%	120%	98%	91%	
5	だて正夢	-	迫町		390	93.8	366	72.0	20.5	539	0
				前年比・差	106%	99%	105%	102%	95%	102%	
				平年比・差	94%	110%	103%	92%	98%	93%	
6	金のいぶき	-	登米町		468	80.0	374	58.6	21.5	472	2
				前年比・差	94%	90%	85%	119%	96%	97%	
				平年比・差	92%	97%	89%	106%	97%	93%	

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農業8成分、化学窒素成分

※平年値は、過去5か年（平成30年～令和4年）の平均値。

※金のいぶきは調査3年目のため、過去2か年の平均値を使用。

※倒伏程度は倒伏角度「0～4」×面積比率。例）完全倒伏ならば400（4×100%）。

移植（ひとめぼれ（3ほ場平均） 平年比）

○m²当たり穂数→ やや少ない（98%） ○一穂粒数→ やや多い（103%）
 ○m²当たり粒数→ 並（100%） ○登熟歩合→ やや高い（103%）
 ○玄米千粒重 → 並（100%） ○収量 → 多い（105%）

移植（ササニシキ 平年比）

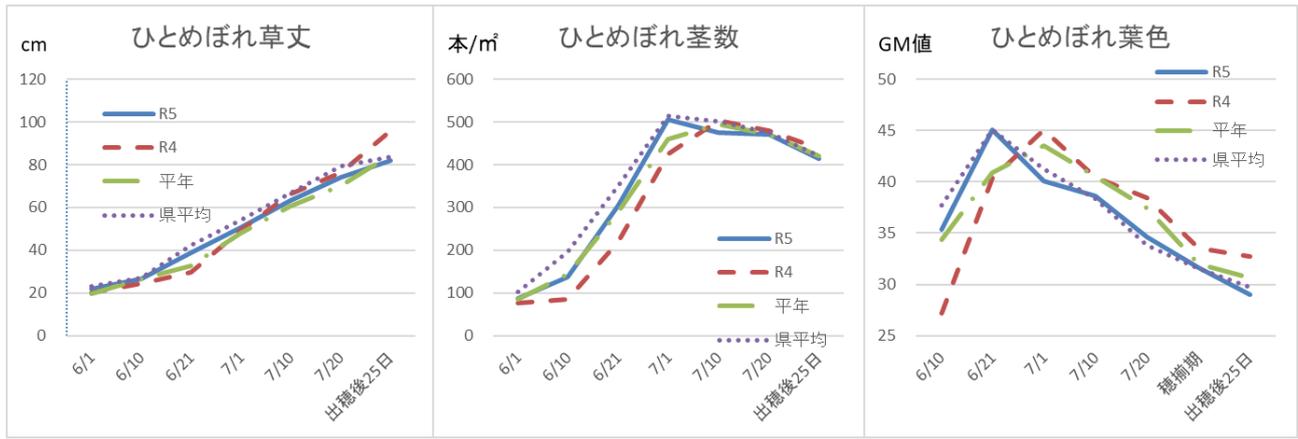
○m²当たり穂数→ 少ない（82%） ○一穂粒数→ 少ない（94%）
 ○m²当たり粒数→ 少ない（78%） ○登熟歩合→ 高い（120%）
 ○玄米千粒重 → やや軽い（98%） ○収量 → 少ない（91%）

移植（だて正夢 平年比）

○m²当たり穂数→ 少ない（94%） ○一穂粒数→ 多い（110%）
 ○m²当たり粒数→ やや多い（103%） ○登熟歩合→ 低い（92%）
 ○玄米千粒重 → やや軽い（98%） ○収量 → 少ない（93%）

（移植 ひとめぼれ）

- ・ 6～7月は高温が続き、葉色は平年よりも早くピークを迎えました。その後、葉色は低下していき、平年よりも淡く推移しました。
- ・ m²当たり穂数は平年よりもやや少なくなりましたが、登熟歩合は高くなりました。
- ・ 玄米の長さは5.20mm、幅は2.70mm、厚みは2.06mm（前年長さ5.40mm、幅2.77mm、厚み2.02mm）でした。

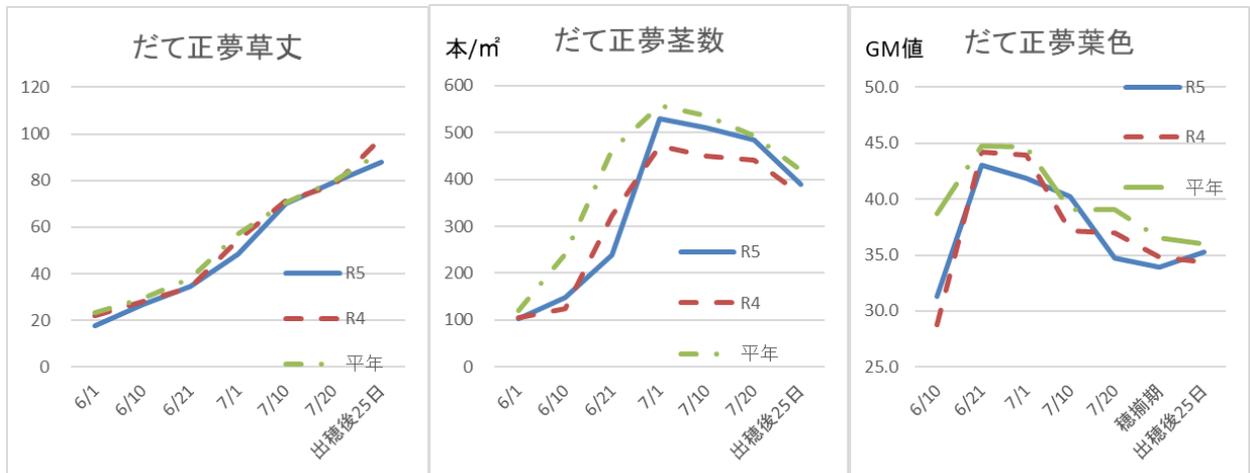


ひとめぼれ3ほ場平均 粒数比(%)

	1.9mm未満	1.9mm以上	粒数比(%)				計
			1.9~2.0未満	2.0~2.1未満	2.1~2.2未満	2.2~	
R5	14.3	85.7	14.3	35.5	29.7	6.2	100.0
R4	5.7	94.3	11.7	38.6	36.3	7.6	100.0

(移植 だて正夢)

- ・ 6月下旬の茎数は平年を大きく下回りましたが、その後、茎数は増加しました。
- ・ 一穂粒数は平年よりも多くなりましたが、㎡当たり穂数、千粒重が平年を下回ったため収量は平年より低くなりました。



だて正夢 粒数比(%)

	1.8mm未満	1.9mm以上	粒数比(%)				計
			1.9~2.0未満	2.0~2.1未満	2.1~2.2未満	2.2~	
R5	11.2	88.8	16.0	45.3	24.2	3.2	100.0
R4	8.7	91.3	16.2	48.6	23.9	2.7	100.0

＜参考＞ ひとめぼれ収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	410～460本
1穂籾数	60～70粒
㎡当たり籾数	28～30千粒
登熟歩合	85～90%
玄米千粒重	22.3g
10a当たり収量	550kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

＜参考＞ ササニシキ収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	480～510本
1穂籾数	54～64粒
㎡当たり籾数	28～30千粒
登熟歩合	80～85%
玄米千粒重	21.4g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

＜参考＞ だて正夢収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	350～400本
1穂籾数	85～95粒
㎡当たり籾数	30～34千粒
登熟歩合	75～85%
玄米千粒重	21～21.5g
10a当たり収量	540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

＜参考＞ 金のいぶき収量構成要素目標(移植)	
㎡当たり穂数	440～490本
1穂籾数	64～72粒
㎡当たり籾数	30～33千粒
登熟歩合	70～75%
玄米千粒重	22.5～23.2g
10a当たり収量	510～540kg

収量は1.9mm以上の玄米

※「宮城県稲作指導指針基本編(平成31年3月)」から

(2) 乾田直播栽培 収量調査結果

【水稲収量調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点	収量調査(1.9mm以上)						＜参考＞	
				㎡当たり 穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒)	㎡当籾数 (百粒/㎡)	登熟歩合 (%)	玄米千粒 重 (g)	精玄米重 (kg/10a)	倒伏 程度 (%)	
1	ひとめぼれ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町	前年比・差	432	79.1	342	62.6	22.6	484	2
				平年比・差	102%	107%	110%	88%	97%	94%	
2	ササニシキ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町	前年比・差	344	89.2	307	83.8	21.4	552	0
				平年比・差	97%	76%	74%	119%	102%	90%	
3	つきあかり	ブヲ耕 グレンドリル 体系	豊里町	前年比・差	263	84.9	223	88.5	25.5	503	0
				平年比・差	79%	86%	68%	138%	101%	94%	
				前年比・差	59%	108%	66%	117%	104%	80%	

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

※倒伏程度は倒伏角度「0～4」×面積比率。例)完全倒伏ならば400(4×100%)。

乾田直播(ひとめぼれ 平年比)

- ㎡当たり穂数→ 少ない(93%)
- 1穂籾数→ 多い(107%)
- ㎡当たり籾数→ 並(100%)
- 登熟歩合→ 低い(91%)
- 千粒重 → 並(99%)
- 収量 → 少ない(90%)

- ・1穂籾数は多くなりましたが、㎡当たり穂数が少なく、㎡当たり籾数は平年並となりました。収量は、前年、平年と比べて少なくなりました。
- ・ササニシキ、つきあかりについても、㎡当たり穂数は少なく、㎡当たり籾数も少なかったことから、収量は前年、平年と比べて少なくなりました。

7 令和6年産に向けての対策

(1) 土づくりと適正施肥

堆肥や土づくり肥料(ようりんやケイカル等)を施用し、地力を高め、稲体や根の活力を高めましょう。生育状況に合った施肥を行い、穂揃期まで葉色を維持しましょう。

(2) 晩期栽培等による品質向上及びリスク分散

ひとめぼれ・ササニシキ等の晩期栽培(田植え5月15~25日)や直播栽培により出穂期を8月中旬にし、高温登熟および障害不稔の回避を図りましょう。

☆出穂期を遅らせるためには、播種時期を遅くする必要があります!

(3) 適正な肥培管理・水管理の徹底

安定した品質を確保できるよう適正籾数(ひとめぼれで2.8~3万粒/m²)を目標に、ほ場にあった施肥や栽植密度、植付本数を設定しましょう。

近年中干しの開始時期が遅くなっている傾向があります。有効茎数を確保したら、速やかに中干しを行い、根の活力を高めましょう。落水時期は出穂後30日頃を目安とし、早期落水は避けましょう。

(4) 病害虫の防除対策は予防が一番の対策です!!

1) ばか苗病

温湯消毒後の種籾の再汚染を防止しましょう。種籾の保管場所や状況、催芽・出芽時の温度管理を再確認しましょう。生物農薬による種子消毒も効果的です。

2) 紋枯病

年々ほ場内の菌核の密度は高まっています。本年は高温多湿の影響により、例年以上に病徴の進展したほ場も見られました。

減収率5%を許容水準とすると、要防除水準は穂ばらみ期の発病株率が中生品種で15%程度、晩生品種で20%程度です。必要があればJA等に相談し、本田での防除を行いましょう。

3) いもち病

箱施用剤の施用量を順守し、予防防除に努めましょう。あわせて、ほ場をよく観察し、必要があればJA等に相談し、本田での防除を行いましょう。

4) 斑点米カメムシ類

地域一斉の草刈りや広域一斉防除は斑点米カメムシ類の防除に効果的です。

ほ場内にヒエやイヌホタルイなどの雑草があると、斑点米カメムシ類をほ場に呼び寄せてしまいます。除草は確実にいきましょう。令和5年度に残草が多かったほ場では一般米栽培に戻し体系防除による除草を行うことも検討しましょう。また、高温の影響によりカメムシ類の各世代の発生盛期は平年より早まっているため注意しましょう。

アカスジカスミカメの密度低下の一つの方法として、越冬世代の餌となるイネ科植物がある場所を春に草刈り、除草剤散布、畦塗りすることも有効です。

(5) 適期収穫

「ひとめぼれ」「ササニシキ」の収穫期の目安は出穂後の積算平均気温1,000℃となった頃です。積算平均気温とあわせて、籾の熟色、籾水分等から総合的に判断し、適期刈取りに努めましょう。

※高温登熟の影響で令和5年産種子は休眠が深くなっています。浸種は10~15℃の水温で、積算水温をしっかりと確保しましょう。低水温での浸種は避けましょう。